



広報

なは

市民の友

第785号毎月1日発行

2016年(平成28年)

6月

市の人口と世帯	
※()内はうち外国人	
2016(平成28)年4月末現在	
総人口	323,586(3,626)
男	156,864(2,054)
女	166,722(1,572)
世帯数	147,909(2,434)

発行 那覇市
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
☎(代表)867-0111
印刷 光文堂コミュニケーションズ(株)
配布 那覇市シルバー人材センター



平成18年7月、経済協力開発機構(OECD)が、日本の子どもの貧困率の上昇などを報告して以降、日本でも、子どもの貧困問題への注目が高まりました。

国では平成26年1月に「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が施行され、沖縄県でも「沖縄県子どもの貧困対策計画」がまとめられました。本市でも、「那覇市子どもの貧困対策庁内推進会議」を立ち上げ、全庁的に情報を共有し、子どもの貧困対策に向けた取り組みをスタートしました。

貧困の連鎖を断ち切るために

～子どもの貧困問題への取り組み～

学習支援と居場所づくり

市では、生活困窮世帯の子どもたちに対して、生活支援や学習支援を行っています。主に児童自立支援員が家庭訪問や学校訪問など

沖縄県は全国の1.8倍

子どもの貧困率とは、国民の平均所得の半分を下回る所得を暮らす、18歳未満の子どもの割合を指します。平成27年11月に県が実施した調査における沖縄県の子どもの貧困率は、29.9%で、全国の16.3%(平成24年)と比較すると1.8倍となっています。

子どもの貧困は、不登校や非行、健康状態の低下などさまざまな問題につながるおそれがあります。また、親の貧困が子どもの教育不足をもたらし、その子どももまた大人になって貧困に陥る、という貧困の連鎖が心配されています。



一人ひとりの状況に合わせて教材・課題を用意し個別に学習指導を行う



昨年は自主性や社会性、協調性を育てるために、生徒自ら企画・運営してキャンプ合宿を実施

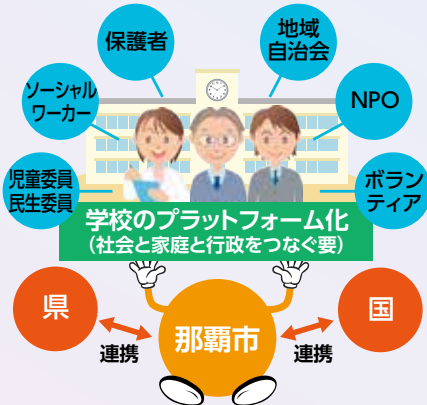


を通じて支援対象者の具体的な家庭環境・生活状況を把握し、一人ひとりが能力に応じた適切な進路に向かえるようサポートしています。

その結果、生活保護世帯の高校進学率は、この5年間で14.1ポイントも伸び、特に男子は30.1ポイントも向上しました。平成26年度の生活保護世帯の高校進学率は、95.1%で、那覇市全体の進学率96.9%と比較しても大差のないレベルまで達するなど大きな成果につながっています。この取組みは内閣府の「沖縄子供の貧困緊急対策事業」でモデルケースとして紹介されました。

また、新たな事業として、今年4月から「子ども寄添支援員」を市内17中学校区に配置しました。学校を子どもの貧困対策のプラットフォーム(基盤)と位置づけ、学校現場・行政・関係機関と連携して、子どもたちの状況を把握・分析し、児童生徒の置かれた環境の課題緩和に取り組みます。

そして、不登校など将来的に貧困になる恐れのある小中学生に、日中の教育的な居場所を確保する「むぎほ学級」(自立支援教室)を開設。学習支援のほか、児童生徒と一緒に献立を決める調理実習や、野菜の苗植えなどの農業体験、ビーチや公園の清掃ボランティア活動を行い、学校や社会への適応の促進および将来の社会的自立につなげることを目指します。



今後の取組み

今後は、無料または格安で食事を提供する「こども食堂」をはじめ、学習支援、不登校・引きこもり支援、就労支援等に取り組む民間団体への業務委託や補助金交付をとおして、子どもの居場所づくりやその運営を支援する事業を予定しています。

子どもの将来が、生まれ育った環境によって左右されることのないよう、また、貧困の状況が世代を超えて連鎖することのないよう、市では、子どもの貧困問題を幅広くサポートしていきたいと考えています。

学習支援 こども食堂について
保護管理課(自立支援G)

☎8611-5193

子ども寄添支援員 むぎほ学級について
教育相談課

☎8322-7868

主な紙面

- 貧困の連鎖を断ち切るために子どもの貧困問題の取組み 1
- 津波避難ビル完成/熊本地震活動報告 2
- 県議会議員選挙の投票日/慢性的腎臓病(KID)ふきとくろ寄附金 3
- 情報バック 4
- 博物館トピックス/ニュースダイジェスト 8



那覇市長 城間幹子

反戦と平和を希求するシンボルとして描かれたゲルニカの精神と悲慘な沖縄戦を体験し、恒久平和の実現への強い意志を持つ那覇市民、沖縄県民の心は、相通じるものがあると感じています。6月23日は慰霊の日です。私たちは愚かな戦争を再び繰り返してはならないと戦禍で亡くなられた御霊に誓い、恒久平和への強い願いをこの那覇市から世界の人々に発信していくことを改めて決意します。

1944年10月10日、那覇市ではいわゆる10・10空襲がありました。米軍による住民を巻き込んだ無差別爆撃であり、その翌年に始まった沖縄戦では、首里城をはじめとする貴重な文化財が失われ、町は瓦礫の山に変わり、20万人以上の尊い命が失われました。

市制施行95周年記念事業として、琉球朝日放送開局20周年記念「パプロ・ピカソ ゲルニカ(タピスリ) 沖縄特別展」の開催に併せて、去る4月9日、平和を考える機会として「シンポジウム『ゲルニカよせて』」を開催しました。「ゲルニカ」は、1937年ナチス・ドイツ軍がスペインの小さな町「ゲルニカ」を無差別爆撃したことを主題とした作品です。

市長室

平和を考える

ばいばい! 幹子やいびん

